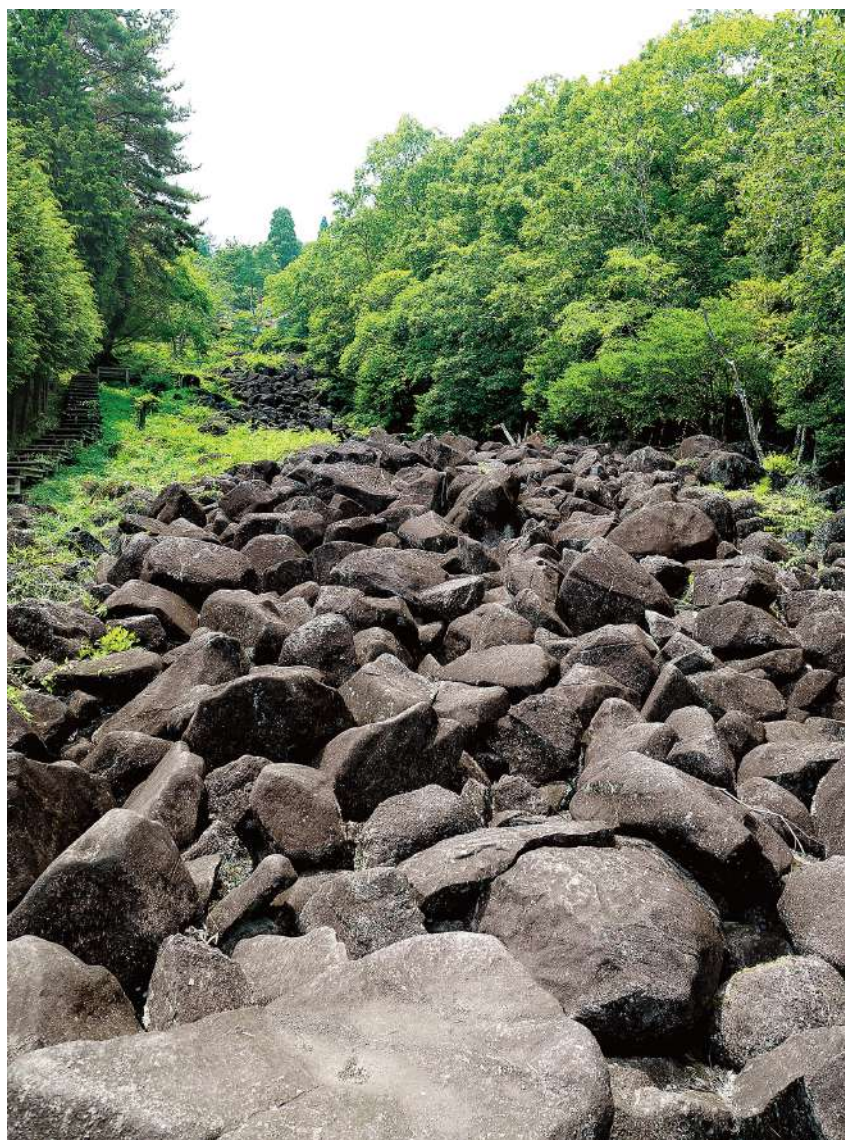


## 第3部

# 前期基本計画

(令和8年度▶令和11年度)



## 第1章 むらづくりの分野

### 第1節 安心して快適に暮らせるむらづくり

#### 【あるべき姿（4年後のゴール）】

「安心して快適に暮らせるむらづくり」を実現するため、生活の安全確保と利便性の向上を重点的に進めます。

まず、村民の生命と財産を守るため、防災体制を強化し、災害などの危機に強い地域社会を構築します。これに加え、防犯対策を充実させて犯罪のない村をめざすとともに、消防体制の見直しなどにより、火災から人命が失われる事態を防ぎます。これらの施策を通じて、村民が日々を安全に送れる環境を構築します。

また、快適な生活基盤として、公共施設・公共交通・公共道路の維持・整備を進め、すべての村民が利用しやすい利便性の高い環境を整えます。また、生活の根幹である上下水道については、整備と管理を強化し、安全で美味しい飲み水の確保と、豊かな水環境の保全を実現します。これらの施策により、誰もが心身ともに安心して快適に暮らせるむらづくりを推進します。

#### ○主観指標【住民アンケートでの満足度（単位％）を向上させること】

指標名	現状値 (R7年度)
防災対策が充実している	30.3
救急・消防体制が充実している	40.5
防犯対策が充実している	34.3
コミュニティバスなど交通手段が充実している	70.2
交通安全対策が充実している	26.5
道路が整備されている	23.5
上下水道が適切に維持管理されている	62.4

○客観指標

指標名	現状値 (R7 年度)	目標値 (R10 年度)
むらづくりの分野		
地域別の防災訓練への延べ参加者数	225	527
むらづくりの分野 1-1		
防犯カメラの延べ設置件数	36	51
むらづくりの分野 1-2		
公共施設等総合管理計画の改定及び 適切な運用の実施	—	改訂・実施
むらづくりの分野 1-4		
コミュニティバスの年間延べ利用回数 (片道につき1回)	23,000	23,300
むらづくりの分野 1-5		
村が直接維持管理作業を実施する路線数	4	17
むらづくりの分野 1-6		
村道の安全管理 (特1級・1級路線の舗装修繕率)	2	50
むらづくりの分野 1-6		
橋梁の長寿命化対策 (早急な修繕を要する橋梁数)	3	0
むらづくりの分野 1-6		
主要幹線県道の隣地立木伐採延長 (m)	0	2,400
むらづくりの分野 1-6		
簡易水道管路更新地区数	4	6
むらづくりの分野 1-7		

## むらづくりの分野1-1 有事に備える防災対策

### ○現状と課題

- ・ハザードマップの各戸配布や防災無線の更新工事を行うなど、災害時に備えた取り組みを適切に行っている。
- ・ここ数十年大きな災害を経験していないこともあり、行政、住民ともに大災害に即応できる行動が取れるかどうか不確実である。

### ○取組の方向性

- ・行政側からの提供のみではなく、「地域住民が互いに助け合える」体制を作るため、地域での防災訓練等を実施する。
- ・村単独ではなく近隣自治体との広域的な連携を密にすることや、自衛隊をはじめ国や県の関係機関と平時からつながりを持つことで、有事の際に適切に対応できる体制を整備する。
- ・物資の補給等において、より多くの民間事業者と強いつながりを持つことで、安定的な災害対応を継続できるようにする。

### <こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）>

- ・裏山がくずれるのがこわい。この恐怖感があると不安です。（50代・女性）
- ・災害が起こった時の全村民に行き渡る生活用品・食料品等の備蓄は十分に確保できているのか知りたいです。（70代・男性）
- ・東南海トラフ地震、首都直下地震など、自然災害が近い将来に発生すると言われていますが、田舎が見直されて、移り住む人も出てくるでしょう。（70代・男性）

### ○具体的な取組

#### 1 防火・防災啓発活動の強化

- ・地域別防災訓練について消防団の分団単位での訓練を継続して実施する。また、今後もより現実に即した訓練を継続的に実施していく。

#### 2 他団体および民間企業との連携強化

- ・有事の際の円滑な対応を実現するため、近隣自治体や関係機関等との連携を強化する。また、民間企業との連携により、必要な避難物資の確保を進めていく。

## むらづくりの分野1-2 身近な防犯対策

### ○現状と課題

- ・村内においても窃盗や特殊詐欺などの被害が確認されており、防犯の対策が求められている。
- ・村民の防犯意識の向上と地域の治安を守るため、地域における自主的な防犯活動を促進するとともに、行政と関係機関が連携した啓発活動に取り組む必要がある。

### ○取組の方向性

- ・地域、企業、行政、警察等の連携により、防犯体制の充実・強化を図る。
- ・地域安全パトロールや青色防犯パトロールの充実により、効果的な監視体制を実現する。
- ・消費生活にかかるトラブル犯罪を防止するため、相談の充実や適切な情報の提供を行う。

### <こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）>

- ・防犯カメラもなく、見たことのない車がウロウロしていて怖いです。（20代・男性）
- ・物騒な世の中になってきたので、防犯カメラの設置を増やせないでしょうか？（50代・女性）
- ・防犯カメラを増設してほしい。（70代・男性）

### ○具体的な取組

#### 1 関係機関との連携

- ・村民の防犯意識を向上させるため、警察等の関係機関や団体と連携した啓発活動を実施する。

#### 2 情報発信の充実

- ・広報や情報配信アプリ等を活用し、犯罪情報を共有することで被害の防止を図る。

#### 3 防犯カメラの増設

- ・各大字に防犯カメラ設置事業補助金の周知を行い、より多くの防犯カメラを設置してもらうことにより、防犯カメラによる犯罪抑止に努める。

## ○現状と課題

- ・人口減少、少子高齢化が加速する中、団員確保など消防団組織の維持が困難となってきた。
- ・人口減少・高齢化が進む中であるが、現在の救急体制を維持したい。

## ○取組の方向性

- ・消防団組織の見直しを検討する。
- ・村全体として持続可能な防災体制を構築する。
- ・救急体制の維持に努める。

## ＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・消防等に半強制で入らないといけないのがおかしいという人が一定数いると思う。  
（20代男性）
- ・人口減少に対応し、大字役員や消防団などの定数を現状の人口規模に見合った水準へ見直しすべきです。（60代・男性）
- ・大字消防団の協力金が大字によって強制的で高額なので、抜本的な改革と統一を望みます。（70代・男性）

## ○具体的な取組

## 1 持続可能な消防防火体制の検討

- ・消防団の自主的な見直しの中、分団や班の課題について調査し、持続可能な地域の消防団体制を検討する。

## 2 防災・救急体制の充実

- ・他自治体や企業などとの協定による災害時の応援・支援体制を確保する。
- ・県広域消防組合、関係機関等との連携により、救急体制の維持に努める。

## ○現状と課題

- ・地方公共団体では厳しい財政状況が続く中で、今後、人口減少・高齢化等により公共インフラを含む公共施設等の利用需要が変化していくことが予測される。
- ・公共施設等の運営状況や利用実態並びに劣化の状態を的確に把握し、長期的な視点を持って、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行う必要がある。
- ・公共施設等総合管理計画を策定しているが、多数の公共施設において存続の可否を判断できず、計画自体が形骸化してしまっている。

## ○取組の方向性

- ・公共施設等の運営と総量の最適化を図るため、村民の理解を得ながら、効率的・効果的な維持管理や適正配置を推進する。
- ・建築の専門家や外部有識者を加えて、今後その施設が活用できうるのか分析を行う。

## ＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・「全てを維持する」のではなく、集落単位での再編や拠点化を模索することが重要（40代・男性）
- ・使い道の少ない公共施設の取り壊しをすること。（60代・男性）
- ・人口の減少で財政難を心配しています。公共の建物の使用できていないところを貸し出すか、売却する方法もありそうです。（70代・女性）

## ○具体的な取組

## 1 公共施設マネジメント委員会の発足及び専門技術者による施設の調査

- ・専門家を交えた公共施設マネジメント委員会を開催し、施設の方向性を審議する。また必要に応じて、専門家による施設調査を実施し、施設ごとに存続が可能か否かを判断する。

## 2 公共施設等総合管理計画の見直し

- ・上記の委員会や調査と合わせて、節目を迎える公共施設等総合管理計画を見直し広域的・長期的な視点での更新、統廃合、維持管理等の方針を定め、公共施設を計画的に維持管理、適正配置することにより、財政負担の軽減・平準化を図る。

## 3 未利用地等の有効利活用の推進

- ・未利用財産について、利活用方針の明確化や売却等に必要な条件整備を図り、売却、貸付けなどを積極的に進める。

## ○現状と課題

- ・コミュニティバスの運行や福祉タクシーへの運行補助を行っており、多くの住民の利用がある。

## ○取組の方向性

- ・既存のコミュニティバスの路線と便数を確保するとともに、村内移動手段の再検討を進める。
- ・交通安全協会との連携による定期的な交通安全啓発の実施と、ガードレール、カーブミラー等の安全施設の設置推進、横断歩道設置の呼びかけといった道路安全対策を実施する。

## ＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・親の今後を考えると近くに買い物ができる場所や交通の便がいいところに住ませてあげたいと思う。（20代・女性）
- ・山添村のような過疎地こそ自動運転バスなどの次世代の交通技術の社会実装の最適地。実証実験を積極的に進めていただきたい。（40代・男性）
- ・「奈良の子が、奈良の学校に通うのが1番難しいこの状況」をなんとかしていただければと思います。（40代・女性）
- ・奈良市や伊賀市への送迎バスは画期的で定住にプラスになると思う。（60代・男性）
- ・数年後、自分の移動手段はどうなっていくのか。今は自家用自動車を買物、通院はしていますが事故発生率の高い名阪国道の利用も不安の1つ。（60代・女性）
- ・奈良、上野、名張方面への村営バスが整備されましたが、私が住んでいる地域では恩恵を、実感できません（70代・男性）
- ・車なしでは生活できない。道が狭すぎる。（70代・女性）
- ・私は土日に奈良市へ行くことが多い。子や孫に会うためである。今はそれが楽しみである。継続してほしい。（70代・男性）

## ○具体的な取組

## 1 公共交通の確保

- ・コミュニティバスの路線及び便数を確立するとともに、村内移動手段の再検討（個別移動等）を行う。また、今後も利用者の声に耳を傾け、より利用しやすく、安全で効率的な公共交通をめざす。

## むらづくりの分野1-6 暮らしを支える道路整備

### ○現状と課題

- ・草刈りなど自治会の協力を得て実施してきたが、高齢化・人口減少で地域の力が減少し、地域で対応することが難しくなっている。アンケートでも道路の荒廃に対する心配の声が上がっており、対策が急務である。
- ・村内は車がないと生活できない場所であり、道の狭さや道路状況の悪さが住民の不安要素となっている。特に高齢者にとって、車の運転が困難になることは大きな不安要素である。

### ○取組の方向性

- ・交通安全協会との連携による定期的な交通安全啓発の実施と、ガードレール、カーブミラー、白線、安全周知看板等の安全施設の設置を推進し道路安全対策を実施する。
- ・住民が必要とする道路の選択と、予算の集中を行い、住民の安全確保や生活利便性向上につながる主要生活道路の整備や危険箇所の改善を行う。

### ＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・カーブミラーを増やして見にくい箇所を今より減らして欲しい。（40代・男性）
- ・道路上の陥没対策を強化してほしい。（40代・女性）
- ・竹藪が道に覆い被さるような場面に遭遇する。竹をチップにして肥料として販売する自治体もある。粉碎機の貸し出しをアピールしていただきたい。（40代・男性）
- ・車が無いと生活出来ない、予算をもっと道路整備に使うべき。（40代・男性）
- ・道路両脇の雑草や雑木の背が年々高くなり”森化”している。スッキリ刈り上げてきれいな環境づくりをして欲しい。（70代・男性）

### ○具体的な取組

#### 1 交通安全対策

- ・村民、関係機関、交通安全協会等の各種団体との連携を強化し、交通事故のない環境づくりを進める。

#### 2 道路安全対策

- ・自動車交通の安全を確保するため、交通安全協会等と連携し、ガードレールやカーブミラー、白線等の安全施設の設置や改修を実施する一方、ドライバーの運転モラルの向上のための安全周知看板等の設置も行い、道路施設と利用者が共に道路安全対策に取り組む。

### 3 道路環境整備

- 道路環境整備について優先的に予算を割り当て、雑木払いや隣地の支障木伐採、道路際の草の刈り上げ、防草シートで維持する必要がある。

## ○現状と課題

- ・上水道については、平成28年に村全体を一つの簡易水道として統合した。施設の維持管理については、これまで住民で組織した水道組合に業務を委託してきたが、住民の高齢化等により、組合による維持管理が困難になってきている。
- ・下水道は村内5集落で整備されているが、それらの下水道関連施設は築30年超のものが大半であるため、老朽化が進行している。

## ○取組の方向性

- ・現在老朽化が進んでいる簡易水道施設の管路や機械設備について、将来的な維持管理コストと効率性を考慮し、施設の統廃合も視野に入れた計画的な整備を進める。
- ・簡易水道の水源は限られているため、適正な管理体制のもとで現状の料金体制を維持し、持続可能で安定した水の供給を行う。
- ・老朽化が進む下水道施設について、コストや効率性を考慮し、各地区に適した在り方をめざす。

## ＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・井戸水を使っていますが、トラブルで水が止まったりします。その度に親が何人かで修理に行ってます。村にサポートをしてもらいたいです。（20代・男性）
- ・将来水利問題等困ることがないように約束ごとを決めておくべきです。（70代・女性）
- ・上水道工事が始まりました。村でやってくれるのは大変ありがたいです。小さい村ですが、みんなよく頑張っていると思います。（70代・男性）

## ○具体的な取組

## 1 施設の維持管理および統廃合

- ・安全で安心な飲料水を供給するため、老朽化した上水道管路の更新工事を実施する。
- ・上水道施設の効率的な運営を行うため、財政面も考慮に入れて統廃合に向けた施設の在り方等の調査、研究を行う。
- ・下水道施設の更新について、浄化槽への転換も含め、地元組合と連携し協議していく。

## 2 適正な管理体制

- ・令和9年度からの上水道村直営での維持管理に向けスムーズに業務が移行できるようにスケジュールを決定する。その中で、先行して配水池清掃・緩速ろ過砂入替えなど一部作業を村（直営・外部委託）で対応する。
- ・効率的で安全な料金調定・収納システムの構築を早急に行う。

## 第2節 自然豊かで美しい環境を保てるむらづくり

### 【あるべき姿（4年後のゴール）】

「自然豊かで美しい環境を保てるむらづくり」の実現に向け、次世代に誇れる美しい環境の保全と創造をめざします。核となるのは、豊かな自然環境を守り、未来へ引き継ぐ環境保全の取り組みです。このため、生物と人が適切に共生する生物多様性のある自然環境の創出に向けた森林整備の実施や、資源の有効活用を徹底し、ごみの軽量化・資源化を積極的に推進することで、適切な分別と資源化率の向上を図ります。また、生活環境の質を維持するため、適正な生活排水の処理インフラの整備・維持を確実にを行い、清浄な水環境を守ります。

さらに、これらの取り組みを地域全体での環境施策の推進へと発展させ、単に自然を「守る」だけでなく、その豊かな自然を村の資源として捉え直し、多様な形で「活かす」ことによって、環境と経済が好循環する持続可能なむらづくりを推進します。

### ○主観指標【住民アンケートでの満足度（単位％）を向上させること】

指標名	現状値 (R7 年度)
自然環境が守られている	19.0

### ○客観指標

指標名	現状値 (R7 年度)	目標値 (R10 年度)
むらづくりの分野		
農地バンク成約面積 (ha)	2.56	5.56
むらづくりの分野 2-1		
家庭からのごみ排出量 (t)	570	485
むらづくりの分野 2-2		
地球温暖化対策計画の策定及び適切な運用の実施	未策定 未実施	策定 実施
むらづくりの分野 2-4		
混交林整備面積 (ha)	1.92	8
むらづくりの分野 2-4		

## ○現状と課題

- ・豊かな自然環境と里山の景観を維持・保全するための取り組みや森林の公益的機能を向上させるための森林整備を進めている。
- ・人口減少と高齢化により、里山の保全・整備といった住民主体の環境保全活動の継続が困難になりつつある。
- ・農林業の担い手の高齢化や後継者不足は、農地の荒廃を招き、景観や生態系の維持といった環境保全に深刻な影響を及ぼす恐れがある。

## ○取組の方向性

- ・豊かな自然を守りつつ、地域コミュニティの活力を維持し、持続可能な形で活動を継承する。
- ・自然環境の保全活動自体を、観光産業、森林整備といった若者が興味を持てる「働く場所」や「収益源」に結びつける方法を検討する。
- ・村の農地資源を活用し、環境に配慮した持続可能な有機農業に取り組む。

## &lt;こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）&gt;

- ・耕作放棄地問題にもっと取り組むべき。（40代・女性）
- ・遊休地の有効利用と雇用の創出、村の活気回復に向け、さらなる議論をお願いします。（40代・女性）
- ・農林業にしっかり力を入れていただきたいです。年を重ねても自然と協和しながら、安心・安全に暮らせる事を願っています。（50代・女性）
- ・今ある自然一杯の山添村を残してもらいたい。（60代・女性）
- ・木の伐採をこまめにして、新しい木を植え替える。高齢化を少しでも減らすために、若い人たちが楽しめる場所を作り、山添村の人を育てていく。（60代・女性）
- ・農地の荒廃対策、後継者が少なくなり荒廃が進んで来ています。地域おこしに協力していただける方など募集してはどうか。（70代・女性）
- ・オーガニックビレッジ宣言、目の前の荒れた畑で、オーガニック野菜が作れる。これで収入が有れば、高齢者の楽しみができて、良い事だと思っております。（70代・男性）
- ・米作りでは、食べていけない。田んぼは簡単に作業はできない。（80代・男性）
- ・農地、山林の荒廃がふえているので非常にさびしく思う。何らかの対策が無いか考えてほしい。（80代・男性）

## ○具体的な取組

### 1 持続可能な環境保全活動

- ・ 防災、生物多様性機能の向上のため、混交林整備事業を実施する。
- ・ 耕作放棄地の増加を防ぎ、美しい里山の景観と生態系を維持するための取り組みを行う。

### 2 オーガニックビレッジ取組の推進

- ・ 村の耕作放棄地を活用し、村内外の農業に興味のある事業者や人々にPRして来村を促し、村内で有機農業を始める人に寄り添い学べる仕組みを構築する。

### 3 農地情報の発信内容強化（農地バンク）

- ・ 耕作を放棄された遊休農地について、土地情報システム（GIS）を活用し、位置や賃借条件のみならず、地質状況に応じた作付け可能作物情報等も追加し、農地を検索されている方の希望に沿う土地のマッチングを推進する。

## むらづくりの分野2-2 ごみの減量化、資源化

### ○現状と課題

- ・現在はごみ処理の効率化を図るため事務組合で処理を行っているが、ごみの量により負担金を支払っているため、財政状況が厳しくなる中で今後より一層のごみの減量化が求められている。また、資源の回収もここ数年減少している。
- ・住民の高齢化などの理由により、地域でのリサイクル活動について、従来の手法を継続していくことが困難となりつつある。

### ○取組の方向性

- ・ごみ排出量の多くを占める事業系ごみについて、一般廃棄物として廃棄しないよう対応する。
- ・従来のリサイクル手法については、高齢化による作業の負担も考慮し、状況に応じた方策を整理して、効果的な啓発を行っていく。

### <こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）>

- ・移住者の方に対して、ゴミの捨てる方法を、コーディネートしてあげる人がいると助かると思う。（70代・女性）

### ○具体的な取組

#### 1 ごみの減量

- ・ごみ削減対策を実施する。事業系ごみは一般廃棄物と分別するよう対応する。

#### 2 リサイクルの行政収集等

- ・例えば夏場は飲み物や缶、ペットボトルが多くなるため、季節ごとのリサイクルの啓発を強化する。

#### 3 生ごみの堆肥化の推進

- ・食材として活用できる工夫や、ゴミを出す際の水切りの必要性和、生ごみの堆肥化の意義について広報を行う。さらに生ごみ処理機購入補助の広報を強化する。

## むらづくりの分野2-3 適正な生活排水の処理

### ○現状と課題

- ・山辺環境衛生センター開設から約40年が経過しているなか、老朽化により今後のし尿や汚泥の処理を継続して実施することが困難となってきた。
- ・汲取式トイレ・単独浄化槽などの生活排水は、環境面において適正な処理ができておらず改善が必要である。

### ○取組の方向性

- ・施設の更新等は財政的に厳しいため、外部処理施設での処理について模索する。
- ・汲取式トイレ、単独浄化槽の情報を把握していないため、まずは情報収集を行い環境改善を目指す。

### <こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）>

- ・上下水道は各大字管理であることに疑問を持っている。村運営にしてほしい。（40代・女性）
- ・農業集落排水事業を推し進めてほしい。（60代・男性）
- ・合併浄化槽の清掃に係る金額が高すぎる。（70代・女性）

### ○具体的な取組

#### 1 し尿処理等の今後の方向性の検討

- ・近隣市町村と汚泥処理事務委託に向けて協議をする。

#### 2 合併浄化槽設置の推進

- ・汲取式トイレ・単独浄化槽の利用者に合併浄化槽設置の働きかけを行う。

## ○現状と課題

- ・地球温暖化の観点から森林の維持管理が重要となっている中、山林所有者の山離れが深刻になっている。
- ・森林組合が解散したため、森林環境保全は村主体で行っていくことが求められており、県等関係機関と連携した取組体制が必要である。

## ○取組の方向性

- ・村主体での森林機能の維持手法を検討するとともに、森林整備計画を見直して適切な森林環境の維持を行う。
- ・有害鳥獣駆除事業補助金の見直しや猟友会との連携強化を図り、住民が安心できる森林環境を整備する。

## &lt;こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）&gt;

- ・自然環境の保全やリサイクル対策など環境にやさしいむらづくりを切に望む。  
(40代・男性)
- ・後継者不足で数年前から茶山の荒廃が目立ってきています。また、森林組合も無くなるなど村の林業が衰退してきて残念です。(60代・女性)
- ・森林等、「緑」は、ほおっておいては良くなならない。放置すると森が駄目になってしまうので手入れが必要。害のある動物を何とかしてほしい。(60代・男性)
- ・温暖化も進む中で、水問題・森林問題等考えていく必要があるのではないのでしょうか。  
(70代・女性)
- ・村のあちこちに猪、近ごろは鹿がさくを越えて荒らし、熊まで出て来ています。人口が減るとどうなっていくのか不安になっている日々です。(70代・女性)

## ○具体的な取組

## 1 温室効果ガス排出削減対策

- ・地球温暖化対策実行計画に基づく施策を推進する。

## 2 村主体の森林機能維持・整備計画の立て直し（山添村の里山風景を守る森林維持）

- ・山林管理の色分けをするため、令和7年度を皮切りに村を3つのエリアに分け、順次計画的に、村内山林所有者に森林の管理に関する意思を尋ねる意向調査を実施し、現状把握と森林整備方針の立案を実施する。

また、意向調査結果に基づき、人々の暮らしに密接に関わる里山については災害に強く、生物多様性のある森林に向け混交林整備事業（施業放置された人工林（植林され

た針葉樹林)に、土地に強く根を張る広葉樹を混交植樹整備)を推進する。

### 3 有害鳥獣駆除事業補助金の見直し(猟友会との連携強化)

- 鉄砲所持者の活動コストへの支援強化や、わな猟者への狩猟補助の拡充など、村猟友会活動維持に向けた支援拡充を検討する。

### 第3節 学ぶ喜びを感じることができるむらづくり

#### 【あるべき姿（4年後のゴール）】

「学ぶ喜びを感じられるむらづくり」の実現に向け、全世代の夢と生きがいを育む地域づくりを推進します。まず、子育て環境の整備として、切れ目のない支援体制を確立することで、村民が安心して子育てできる基盤を築きます。

また、学校教育においては、未来に夢や生きがいを持てるよう、子どもたちの個性と能力を伸ばす教育を充実させます。さらに、誰もが自己実現できる環境として、生涯学習と生涯スポーツの機会を拡充し、村民が生涯を通じて活躍し、健康的に過ごせる環境を提供します。

そして、郷土の歴史文化遺産を大切に守り、次世代へ伝え残していくことで、村への愛着と誇りを深めます。これらの施策を通じて、すべての村民が生きがいを感じ、生き活きと暮らせる村をめざします。

#### ○主観指標【住民アンケートでの満足度（単位％）を向上させること】

指標名	現状値 (R7 年度)
安心して出産・育児が出来る	37.9
子どもの教育が充実している	38.5
公民館など文化施設が充実している	29.1
スポーツを楽しめる機会が充実している	20.9
年齢や性別によらず自分らしく生きることができる	23.0
文化的な行事や文化財が保護されている	24.4

#### ○客観指標

指標名	現状値 (R7 年度)	目標値 (R10 年度)
むらづくりの分野		
出生率（％）	2.27	2.62
むらづくりの分野 3-1		

こども家庭センター利用率 (利用者/未就園児) (%)	93.3	100
むらづくりの分野 3-1		
こども家庭センターの年間利用者延べ人数	1,591	1,600
むらづくりの分野 3-1		
架け橋カリキュラムの作成	無	素案完成
むらづくりの分野 3-2		
「私には良いところがある」に対して肯定的に 回答している児童生徒の割合 (%)【こころと学 校生活に関するアンケート (奈良県教育委員 会)】	75.5	85.0
むらづくりの分野 3-3		
「授業では課題解決に向けて、自分で考え、自 分が取り組んでいた」に対して肯定的に回答し ている児童生徒の割合 (%)【全国学力・学習状 況調査 (文部科学省)】	74.1	85.0
むらづくりの分野 3-3		
「地域の大人に授業や放課後などで勉強やス ポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒 に遊んでもらったりすることがある。(習い事 は除く)」に対して肯定的に回答している児童 生徒の割合 (%)【全国学力・学習状況調査 (文 部科学省)】	40.7	80.0
むらづくりの分野 3-3		
当該年度当初 (4月1日現在) の人口に対する スポーツイベント等への参加率 (%)	9.28	15
むらづくりの分野 3-4		
歴史文化遺産を残すための調査、アーカイブ作 成件数	1	5
むらづくりの分野 3-5		

## ○現状と課題

- ・令和6年度に認定こども園きらりとこども家庭センターてんくるを開設し、幼児から中学生までの一貫した子育て支援につながる体制を整えた。
- ・今後の充実発展を見据えた具体的な成果指標(目標設定)や運営の総括が不明確であり、より専門的な相談支援の利用が求められている。
- ・少子化が進む中、子育ての孤立感や不安・負担感を抱える子育て家庭へのきめ細かい支援が求められている。

## ○取組の方向性

- ・子育て世代の親子が気軽に集い、相互の交流や育児相談ができる拠点として機能することで、子育ての孤立感、負担感の解消を図り、安心して子育てできる村を目指す。
- ・認定こども園の幼児教育を義務教育につなげる体制を作り、子育て世代に選ばれる環境を整える。

## ＜こんなむらになったらいいな(住民アンケートでの意見)＞

- ・村の人口も子どもの数も減っている。子育て世代への支援や、住み続けている住民、移住者に対して手厚い補助金や、サポートがあった方がいい。(20代・男性)
- ・村内村外関係なく子どもはみんな(社会で)育てようよの意識。(50代・女性)
- ・移住された方が「子どもも楽しく過ごし、移住して満足」と話されていて嬉しく思いました。普段の暮らしの充実が、地域を守る将来につながる。(50代・女性)
- ・周辺を見渡しても、若い夫婦がいない状況です。住みやすい村、子育てしやすい村にして欲しい。(60代・女性)
- ・子育て支援事業てんくる広場・園開放等、施設も新しく、中でお世話して下さる職員の方々のあたたかく元気な対応に感謝。(70代・女性)
- ・やまぞえの子ども達は村の宝です。その大切な子ども達の育成には力をそそいであげて欲しいと願っております。(70代・女性)

## ○具体的な取組

## 1 子育て支援対策の推進

- ・こども家庭センターの充実や保育料無償化などの経済的負担の軽減、地域が一体となった子育て支援体制の充実により、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進める。

## 2 先を見据えた教育の実施（英語教育など）

- ・子どもたちの視野が広がるように、身近な地域とともに他の地域の人々や文化と交流する機会を設ける。

## 3 幼児教育の充実

- ・子どもが健やかに成長するために必要な幼児教育を、保護者、地域、こども園の連携を図り推進する。

## ○現状と課題

- ・全国学力・学習状況調査の調査結果では、各教科の平均正答率は、令和6年度に引き続き令和7年度においても、全国平均より下回っている。
- ・不登校児童数は増加傾向である。児童生徒のペースに併せて相談に乗ったり、学習サポートを受けられる体制づくりが必要である。
- ・教職員の時間外在校等時間の縮減に向け、現状の公表や、業務改善方針・計画の作成、在校等時間に係る目標設定等を行っていくことが必要である。

## ○取組の方向性

- ・個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を図り、児童生徒一人一人の資質・能力の育成を図る。
- ・不登校児童生徒の学びの場を確保し、多様な学びにつながるができるよう、個々のニーズに応じた受け皿を整備する。
- ・教職員における長時間勤務の要因の多くを部活動指導が占めているという現状を踏まえ、学校部活動の在り方を検討する必要がある。また、教員が担うべき業務に専念し、子どもと向き合う時間を少しでも多く確保できるよう、教員を支援する外部人材の配置及び、支援スタッフの配置拡充を図る必要がある。

## &lt;こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）&gt;

- ・新しくなる小中学校が楽しみです。（20代・女性）
- ・地元山添は自然豊かで、静かな良い環境があります。課外活動など実学を増やしてほしい。（20代・女性）
- ・英語教育に力を入れてほしい。どんな人（海外から来た人、帰国子女など）でも住みやすい村にしてほしい。（20代・女性）
- ・村をあげて、未来を担う子ども達の学力底上げが必要。（40代・女性）
- ・小中一貫校になり、楽しい教育にも力を入れてもらい、安心して高校に進学できるよう、塾などに行かなくてもいいように充実させていただきたい。（60代・女性）
- ・こども園が新設され、小・中一貫校も数年後に開校される教育環境にあり、併せて自然の豊かさをアピールして、若者の移住促進につなげるような行政を希望します。（60代・女性）
- ・小中一貫校が進められていますが、子ども達の教育がいつそう充実されるよう、新たな視点に立った努力をお願いしたい。（70代・女性）

## ○具体的な取組

### 1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

- ・ こども園と義務教育学校の架け橋となるカリキュラムを作成する。
- ・ きめ細やかな学習支援体制の充実を図る。
- ・ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を行う。
- ・ 独自教科「やまぞえ学」の設定及び多文化共生教育を推進する。

### 2 不登校対策の推進

- ・ 校内の教育支援センター設置及びスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる支援体制の充実を図る。

### 3 教育D X、教員の働き方改革

- ・ 長時間勤務の是正及び支援スタッフの配置拡充を行う。
- ・ I C Tなどデジタルの力も活用しながら教員の業務効率化を図る。

## ○現状と課題

- ・学校と地域住民等が協力して整備したコミュニティ・スクールやコミュニティ協議会が持つ役割を十分に機能させる必要がある。
- ・少子化の中でも、子どもたちが学ぶ機会を持つとともに、地域での多様な体験やさまざまな世代との豊かな交流等を通じた学びなどの新しい価値を創出する。

## ○取組の方向性

- ・学校と地域の橋渡し役である地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員等）の人材育成及び学校ボランティアの人材確保を図る。
- ・学校と地域との連携・協働によって、地域とともにある学校づくりを進めるため、持続可能な学校運営の促進に努める。

## ＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・通勤に時間がかかる。子どもの習い事に車送迎が必須。村内で習い事が週1回でもできると嬉しい。（30代・女性）
- ・引きこもりの子どもたちが増えていることを踏まえ、子どもたちの居場所づくりを行なって欲しい。（60代・女性）
- ・子ども達との交流が少ないので、各大字か昔の小学校区くらいで、老人の元気な人達が自由に米や野菜を作付出来る様な土地を探し、共に活動できる機会を作れたら。（70代・女性）

## ○具体的な取組

## 1 地域学校協働活動の充実

- ・地域コーディネーターの人材育成及び学校ボランティアの人材確保を行う。

## 2 学校運営協議会の充実

- ・学校運営協議会の開催回数拡充及び協議内容の充実を図る。

## ○現状と課題

- ・山添村民スポーツ（体育）大会は、大会全体を通して幅広い年代の参加があるが、少子高齢化や人口減少に伴い参加者数は年々減少傾向である。
- ・公民館の利用率が低く、各講座を実施しているが、幅広い参加者の確保ができていない状況である。

## ○取組の方向性

- ・幅広い世代が心身の健康及び体力の保持増進と豊かな生活（スポーツライフ）を送ることができるよう、持続可能なスポーツ活動ができる社会の実現に向け取り組む。
- ・一人ひとりが心豊かに人生を送れるよう村民のニーズに応じた取り組みをしていき、村民の主体的な生涯学習活動の支援を行う。

## ＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・スポーツの多様化により、ふるさとセンターに屋内の多目的施設が欲しい。こども家庭センターてんくるともうまく組み合わせられたら。（40代・男性）
- ・地域公民館における公民館活動が充実している。一緒に学ぶことでコミュニケーションが生まれ、知り合いも増え、楽しく過ごすことができました。（60代・女性）
- ・子どもや大人が自由に勉強、読書、事務作業などができるように公民館や図書室を解放して欲しい。（20代・女性）
- ・スマホ教室の開催やものづくり教室他、魅力的な活動、学びの場が近くにあり、人と人とのふれあいのできる環境は何よりありがたく思います。（70代・女性）

## ○具体的な取組

## 1 スポーツ振興

- ・スポーツ振興では、心身の健康及び体力の保持増進と豊かな生活（スポーツライフ）の形成を目的とした事業を行う。そのためにも、少子高齢化が進んでいく中で年配の方々や子どもたちでも気軽に参加できるようなスポーツ活動の定期的な開催を検討する。

## 2 公民館事業

- ・公民館で公益性のある講座や、幅広い年代が参加しやすい講座の内容や時間設定をするとともに、公民館の予約方法を確立する。また多目的に利用可能な空間を設け、講座の他にも“自由に過ごせる居場所”になるような施策を進める。

## ○現状と課題

- ・地域での歴史文化遺産の維持管理および保存継承が困難となる背景には、少子高齢化をはじめ資金不足や敷居の高さ、価値観の共有不足、関心の分散、教育学習機会の減少といった複雑に絡み合った物理的、心理的、社会的要因がある。地域の歴史文化遺産をなぜ守り継承していく必要があるのかを村民全体で正確に認識する必要がある。
- ・文化団体の活動により山添文化フェスティバルなどで文化に触れる環境を維持しているが、子どもの減少と指導者の高齢化により、伝統文化子ども教室の活動休止が相次いでいる。まずは、文化活動を保存することが喫緊の課題であり、継続と継承のサポートが必要である。

## ○取組の方向性

- ・最優先で大学や研究機関、村民と協力した保存目的の事業を進め、付随して維持管理者へのサポート体制を充実させ歴史文化遺産の維持管理の負担の軽減を行う。
- ・保存継承環境が整った上で次世代につなぐために、教育・観光・地域活動を連携させ、活用に向けた取り組みを進める。
- ・歴史文化遺産を後世へ残すため、各種行事や各団体のあり方・方向性を再確認し、保存や記録に向けた活動内容を検討する。

## ＜こんなむらになったらいいな（住民アンケートでの意見）＞

- ・神野山をはじめとする山添村の自然資源や文化的資産は、地域の誇りです。多様な地域資源を再発掘・再編集することが大切です。（40代・女性）
- ・文化財の保存について、村全体の収蔵庫を作ってはどうか？（70代・男性）

## ○具体的な取組

## 1 歴史文化遺産の保存

- ・現時点で山添村に残っている歴史文化遺産を大学や研究機関、村民と協力して調査研究し、アーカイブとして長期的に保存することで将来、必要に応じて検索や再利用できるように備える。
- ・維持管理の担い手がおらず管理が不可能になった歴史文化遺産の行政管理を検討する。